

日時：平成23年7月30日（土）13：30～

会場：四万十町農村環境改善センター

1. 開会

ただ今から高幡地域の皆様と知事との「対話と実行」座談会を開催させていただきます。

この座談会は、尾崎知事が各地域にお伺いしまして、地域の実情や課題を把握し、皆様の声を県政に反映させていこうということで、平成20年度から実施しております。地域の活性化をテーマとして、県内を8つのブロックに分けて開催することとしておりまして、本日はこの高幡地域で産業や地域おこし、福祉の分野で活躍をなさっている8名の皆様方にご参加をいただきました。

～このあと市町村関係者、県議会関係者、県関係者の紹介と要約筆記（聞こえの不自由な方にその場で音声を文字にして伝える活動）の実施についての紹介が行われました～

2. 知事の県政方針の話

（1）対話と実行座談会

本日は「対話と実行」座談会にご参加をいただき心から御礼を申し上げます。

この「対話と実行」座談会ですが、平成20年度は34市町村全てを回らせていただき、そして21年度、22年度はテーマを絞りながら開催してきました。今年度は各ブロックを回らせていただき、今日で64回目になりますが、本当にいろいろなことを教えていただきました。例えば、今、「高知型福祉」の中核として進めています「あったかふれあいセンター」は、高知県東部に行った時に、これに類する取り組みに非常に感銘を受け、政策に練り上げていったものです。

また「産業振興計画」にもたくさんアイデアをいただき取り組んでおりますが、地域アクションプランの一段前のステップアッププランなどについても、この「対話と実行」座談会を通じてお知恵を賜り、実行しています。

「産業振興計画」や「日本一の健康長寿県構想」など、いろいろな政策を実行していますが、それぞれの政策について地域地域でのお話から、お知恵をいただきたいと考えています。

（2）県政の概要 ～経済の活性化～

まず経済の活性化についてですが、「高知県産業振興計画」を始めて、現在実行3年目です。毎年度、PDCAサイクルを通じて改定を行ってきました。

この産業振興計画は、一言で言えば、人口減少、高齢化で県の経済の足下がどんどん小さく縮む中、地産外商の取り組みを進めようとする政策です。県外から外貨を稼いでこられるような経済体質づくりを行っていきたいと考えていますが、それは単に全国的なステ

レオタイプではなく、地域地域の資源を生かして磨き上げていく中で、ビジネス化、事業化をし、外貨を稼いでこられる仕組みを作っていきたいと進めています。

この2年半の間に、幸い龍馬ブームもあり、特に外商の部分については、観光と相まって非常に大きく進むようになってきたと思っています。例えば、地産外商公社が取り扱った外部との契約件数が平成21年度は178件であったのに対し、平成22年度は444件でした。その前の平成20年度は十数件でしたので、加速度的に取り組みは進んでいます。

また、去年は観光客が4割ほど増え、経済効果ももたらしてくれましたが、その龍馬ブームが一定衰えていく中で、また、いろいろな逆風の中で、外商を今後どうやって維持、発展させていくかが今年度の大きな課題です。外的環境が厳しいからこそ、この2年間で築き上げてきたノウハウをより一層磨き上げて、これまでのパイプをしっかりと生かし、官としての発信力を増していけないといけないと思います。もっと言えば、官と民との協働関係をもっと強くしていくことが必要だと思っています。

地産の部分では、高知県の「ものづくり」をするという点についての弱さを実感させられた2年間でもありました。高知県の原料を使って、加工して、加工品として売っていかうとしても、その生産工程の全てが高知県で終わることがなかなかありません。これは産業集積が全国でも一番小さいと言われる、高知県の構造的な弱点だと思っています。最近「まるごと高知」で非常に売れているショウガのスープは残念ながらメイドイン広島です。原料は高知県産ですが、加工が県外で行われているということがたくさんあるわけです。県内事業者同士のマッチング機能を強化し、県内でのものづくりを進め、それを外商につなげて経済的な利益を導き出していきたい、メイドイン高知を進める取り組みを今年度は特に強化したいと考えています。

いろいろなマッチングの相談を受ける「ものづくり地産地消センター」を6月3日に開設しました。工業技術センターや農業技術センター、産業振興センターなどと協働し、県内事業者同士のマッチング支援に取り組んでいきたいと思っています。

(3) 日本一の健康長寿県構想

続きまして、実行2年目となる「日本一の健康長寿県構想」についてお話をさせていただきます。今年度は、特に次の3つの点に力を入れていきたいと考えています。

1つ目の保健の分野では、「ガン対策」をより一層強化していきたいと考えています。特定健診・ガン検診の受診率向上にも引き続き取り組んでいきたいと考えています。また、歯の健康、お口の健康の問題に大いに力を入れたいと考えています。80歳を超えて20本以上歯がある「8020運動」というのを、高知県も進めているところです。研究データを見ると、歯があるかないかで高齢者の外出にも影響があるなど、心身の健康のみならず、人生の幸せにも大いに関わるのではないかとということが分かってきています。来年度以降、本格的な政策として、「高知県歯と口の健康づくり条例」に基づいて、お口の健康の

政策を進めたいと考えています。

2つ目の医療の分野では、医師確保に向けた取り組み、特に外部から医師をリクルートしてくる仕組みを強化しているところです。さらに、実質2機のドクターヘリの運行やドクターカーや各病院の救急車との連携を図り、管制機能を強化して、たらい回しをなくす、最も効果的な救急医療のあり方を追求しようとしています。

そして3つ目の福祉の分野では、「あったかふれあいセンター」をはじめとした「高知型福祉」の取り組みを進めています。人口減少と高齢化によって地域の支え合いの力が非常に弱くなっているのが高知県の現状です。そういうものを必要としているところほど若い人が少なくなり、支え合いの力が弱まっています。いかに意図的に、政策的に、地域での支え合いの力を作りだしていくかが大きな政策課題だと考えているところです。

「あったかふれあいセンター」や「地域見守り協定」の取り組みを本格的に軌道に乗せ、高齢者の方々にも地域で安心して暮らしていただけるような、そしてまた、社会全体で子どもを見守って育てていけるような県づくりを進めていきたいと考えています。

(4) 南海地震対策や学力向上について

その他、南海地震対策の抜本的な強化、教育改革の取り組みも本格化していかなければなりません。幸い、高知県は、全国学力テストと全国体力テストの平成19年から平成22年にかけての伸び率は全国1位でした。小学校については、学力についてもほぼ全国平均並みに回復しました。しかしながら、中学校はまだ学力テストの順位が全国で46番という状況です。全国平均並みにたどり着くにはまだまだ時間がかかると思いますが、しっかりと取り組みを継続していかなければならないと考えています。